

女子学生（高校生と大学生）の夏季における 飲み物の飲用比較

A comparison of the consumption of drinks in the summer season
between female high school and female university students

韓 順子、谷 伊織、早川史子

Soon-ja HAN, Iori TANI, Fumiko HAYAKAWA

キーワード：女子大学生，地域特性，部活動，嗜好性，来客時，団欒時

Key words : Female university students, regional characteristics, club activities,
preference, the rate of drinks consumption, entertain guests, get-together.

要約

2005年5月下旬から6月上旬において、愛知県における女子高校生と女子大学生の飲み物の飲用状況を調査し、次のような結果を得た。

1. 高校生、大学生ともに夏の飲み物として最も多く飲まれていたのは、煮出し麦茶とウーロン茶だった。
2. 高校生に比べて大学生の方が飲み物の飲用率が低かったのは、大学生の方が食間に飲み物を飲んでいなかったことによるものであった。
3. 緑茶および紅茶、コーヒーに対する嗜好性では、大学生が緑茶やコーヒーを好み、高校生では紅茶を有意に好んでいた。
4. 来客時と団欒時の飲み物として大学生では、緑茶とコーヒーをそれぞれイメージしたのに対し、高校生ではいずれの場合も緑茶、紅茶およびコーヒー以外の飲み物をイメージした。

Abstract

A survey on the consumption of drinks was carried out from late May to early June 2005 on female high school students (167) and female university students (961), and the following results were obtained.

1. The drinks that both high school and university students consume most in the summer are boiled barley tea and oolong tea.
2. In comparison to high school students, university students tended to consume fewer drinks due to not drinking between meals.

3. A preference for green tea, black tea and coffee could be seen, with university students preferring green tea or coffee, but high school students preferring black tea.
4. When entertaining guests or at get-togethers, university students thought of green tea and coffee, whereas in these cases high school students thought of green tea and black tea, but not coffee.

1. 緒言

愛知県は日本列島のほぼ中央にあり、県内総生産は35兆6,862億円で東京、大阪に次いで全国で第3位を占める製造業の盛んなモノ作りの工業県として有名である（愛知県県民生活部統計課資料 2006）。また、日本の六古窯のひとつである瀬戸・常滑焼があり工芸の町としても知られている。一方では歴史的な建造物、名所史跡が数多く残っており、歴史・文化の町としても名をはせている。三重、岐阜、静岡、長野の4県に隣接し、南は伊勢湾、三河湾、太平洋を臨んでいる。西部には、国内2位の広さをもつ濃尾平野があり、東部には豊橋平野を配している。豊かな土壌と太平洋を流れる黒潮の影響により温暖な気候に恵まれ、日本有数の生産量を誇る抹茶や洋ラン、植木や花きなどの特産物を産出している。中でも松平六万石の城下町として知られている愛知県の西尾市は、抹茶の原料となるてん茶の生産地として全国的に有名であるが、その他にも新城、豊橋、豊田の三河茶やてん茶の吉良、番茶の足助、宮崎などの茶産地がある。茶の主産県では、静岡県が全国の栽培面積の4割を占め、次いで鹿児島県、三重県となっており、この上位産出県で全体の6割以上を占めている。愛知県の生産量は主産県全体の1.6%で7位となっている（農林水産省作物統計 2007）。

平成17年の1人当たりの緑茶消費量（飲料を含む）は893gで、1人当たりの緑茶葉購入量は360gあることから、緑茶消費量の約6割がペットボトルや缶などの飲料として消費されていることになる（総務省家計調査年報 2007）。また、世帯当たりの購入量は、1,133gとなっており、前年より56g増えている（総務省貿易統計 2007）。

緑茶飲料の歴史は比較的浅く、1985年に飲料メーカーが缶入り緑茶を発売したことから始まっている。1996年、500mlの小型ペットボトルの登場によりその簡便性から一挙に消費量が拡大した。以降、健康志向の高まりや缶、ペットボトルの浸透により緑茶の利用が増大し多様化してきた。緑茶消費が増えている背景には、社会的な現象によるところが大きい。

しかし、愛知県における高校生の飲み物の飲用状況を調査した結果（韓, 2007）では、麦茶やウーロン茶に比べ緑茶の飲用率が低く、隣接する静岡県の調査結果と異なる傾向が見られた。同世代にもかかわらず地域性や、食文化、食習慣などの違いによって飲み物の飲用状況が異なるこ

とは多いに興味深いところである。

飲料は食事と密接な関係があり、飲み物からある程度食事の摂取状況を推察することができる。例えばコメを主食としたいわゆる和食には緑茶がよく合い、反対にパンを主食とした欧米型の食事にはコーヒー、紅茶が似合う。米を主食とした食事は、PFC 比率を適正に保ち、食料自給率を向上させること（岡崎, 2006）や茶カテキンには、コレステロール低下作用（野沢, 2007、鈴木, 2007）が認められていることから緑茶の飲用率を高めていくことは、望ましい食習慣形成において意義が深い。このような視点から緑茶の飲用実態を中心としてどのような飲み物を飲んでいるかを明らかにしていくことは、栄養教育・食事指導を行なう上で貴重な情報源となる。

これまでの実態調査から日常生活で利用している飲み物は、地域や年齢によって差が見られることや飲料の多様化が進んでいることが明らかにされているが（早川, 2002）、本論文では、「味噌」の食文化をもつ愛知県的女子高校生と女子大学生の飲用状況を比較し、年齢階層別に飲用状況がどのように変化し推移していくかを検討することを目的とした。

2. 調査方法

(1) 調査対象および調査方法

1) 調査対象：愛知県内のいずれも男女共学的女子高校生 167 名と女子大学生 961 名を対象に自記入式質問用紙によるアンケート調査を実施した。調査時期は2005年5月下旬から6月上旬にかけて行なった。欠損値を除く有効サンプル数はそれぞれ 140 名、512 名だった。これは高校・大学ともに男女共学であったため、男子を除外したことや愛知県を生育地とした学生のみを対象としたためである。

2) 調査内容：前報に準じたが、本論文では「その他の飲み物」も比較項目として検討した。

3) 統計処理：女子高校生（以下高校生）と女子大学生（以下大学生）間の飲み物の飲用状況を比較した。解析は χ^2 検定により SPSS 15.0J for Windows SPSS Base System（エス・ピー・エス株式会社）を用いて行った。

3. 結果および考察

(1) 高校生と大学生飲み物の飲用比較

1) 一日全体の飲用比較

一日全体の飲み物別飲用率を表 1 に示した。ここでの飲用率とは、全飲み物（何も飲まないも含む）の飲用回数に対する、ある飲み物の飲用回数の割合を%で示したものである。一日を通してどのような飲み物が飲まれているかを見てみると、高校生、大学生のいずれも麦茶（煮出）が

最も多く飲まれていた。次いでウーロンだった。その他の飲み物としては、高校生では、ジュースや炭酸飲料、乳酸飲料などの甘味飲料系の飲用率が高く、大学生は緑茶の飲用率が高かった。いずれも有意な差が認められた。緑茶の場合、さらにその利用状況(急須で煎れたものとペットボトル)を尋ねたところ、ペットボトルよりも急須で煎れたお茶の利用が多かった。

2) 飲用機会別飲用比較

飲用機会別の飲用状況を表2に示した。ここでの飲用率は、全飲み物の飲用者数(何も飲まないを含む)に対するそれぞれの飲み物の飲用者数で求めた。朝食時の飲み物として最も多かったのは、高校生では麦茶(煮出)と牛乳で全体の50%

を占めていた。大学生では牛乳が最も多く、次いで麦茶の順だった。今回の調査では、朝食時において、高校生の25%、大学生の30%が、牛乳を飲んでおり、全飲料の中では飲用率が有意に高かったが、調査対象がいずれも女子であることや成長期の過程にあることなどから、今後も積極的な摂取が望まれた。一方、朝食時の飲み物として飲用率が低かったのは、ペットボトル入りの紅茶や麦茶で、朝食時におけるペットボトルの利用は、比較的少ないことが推察された。

次に朝・昼食間の飲用状況を見てみると、その第一の特徴としてあげられるのは、大学生は、高校生に比べて飲み物を飲んでいない割合が多いことである。その理由として、大学生の場合、教室移動に伴って時間的な余裕がないことや高校生に比べて活動量が低く、そのため水分摂取が少ないことが考えられた。朝・昼食間の飲み物として多く飲まれているのは、高校生、大学生ともに麦茶(煮出)、ウーロン茶であるが、加えて高校生の場合には、ジュースの飲用率も有意に高い。大学生は、牛乳や炭酸飲料をほとんど飲んでいない。またペットボトルを利用する割合は、比較的高校生のほうが高い傾向にある。

昼食時の飲み物として両者ともに麦茶やウーロンの飲用率が高かった。昼食時の明らかな違いをあげるならばジュースと緑茶の飲用率にある。すなわち、高校生はジュースをよく飲み、大学生は緑茶の飲用頻度が高いことである。ペットボトルの利用は朝・昼食間と同様、大学生に比べ高校生のほうが有意に高かった。また、急須で煎れた緑茶の飲用頻度は大学生が有意に高く、高

表1 一日全体の飲用状況 (%)

	高校生	大学生
飲まない	5.4%	8.3%
水(水道)	6.0%	8.1%
水(P)	5.9%	5.5%
湯	0.0%	0.2%
茶(急須)	2.8%	6.0%*
緑茶(P)	5.6%	8.1%
紅茶(葉茶)	2.3%	2.0%
紅茶(P)	3.1%	1.7%*
ウーロン茶	14.5%	14.1%
麦茶(煮出)	18.6%	21.7%
麦茶(P)	3.3%	1.9%*
玄米茶	0.7%	0.2%
コーヒー(D)	0.9%	1.1%
コーヒー(I)	1.9%	1.9%
牛乳	7.2%	8.0%
ジュース	11.0%	5.7%*
炭酸飲料	4.9%	1.9%*
乳酸飲料	2.7%	1.4%*
健康飲料	3.1%	2.3%

* $p < 0.05$

(P): ペットボトル (D): ドリップ (I): インスタント

(煮出): 茶葉から煮出したもの

表2 飲用機会別の飲用状況（%）

	朝食時		朝昼食間		昼食時	
	高校生	大学生	高校生	大学生	高校生	大学生
飲まない	8.6%	6.1%	9.3%	18.8%*	4.3%	3.9%
水（水道）	9.3%	9.2%	5.7%	5.1%	7.1%	8.8%
水（P）	7.9%	6.2%	3.6%	4.1%	8.6%	3.5%*
湯	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
茶（急須）	4.3%	6.6%	2.1%	2.1%	3.6%	10.7%*
緑茶（P）	6.4%	4.9%	10.7%	10.2%	12.1%	13.7%
紅茶（葉茶）	7.1%	4.5%	2.9%	1.4%	2.1%	2.1%
紅茶（P）	2.1%	1.2%	7.9%	2.1%*	7.1%	2.3%*
ウーロン茶	15.0%	10.2%	21.4%	15.0%	23.6%	18.0%
麦茶（煮出）	27.9%	19.1%*	22.1%	19.1%	25.7%	23.6%
麦茶（P）	3.6%	1.0%*	5.7%	2.3%*	7.9%	2.7%*
玄米茶	1.4%	0.2%	0.0%	0.2%	0.7%	0.0%
コーヒー（D）	3.6%	3.5%	0.7%	0.4%	0.7%	0.2%
コーヒー（I）	3.6%	5.9%	0.7%	0.6%	1.4%	1.2%
牛乳	25.0%	28.9%	4.3%	0.8%	4.3%	2.0%
ジュース	7.9%	6.4%	18.6%	3.9%*	16.4%	5.7%*
炭酸飲料	3.6%	0.4%*	7.1%	0.8%*	2.9%	1.4%
乳酸飲料	5.7%	2.0%*	1.4%	1.0%	2.1%	0.6%
健康飲料	2.1%	2.9%	5.0%	2.3%	3.6%	1.8%

* $p < 0.05$

	昼夕食間		夕食時		就寝前	
	高校生	大学生	高校生	大学生	高校生	大学生
飲まない	5.7%	9.4%	2.1%	2.5%	15.0%	11.9%
水（水道）	9.3%	6.6%	8.6%	9.2%	10.7%	12.5%
水（P）	11.4%	6.8%	10.0%	4.5%*	7.9%	9.4%
湯	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.6%
茶（急須）	2.1%	3.5%	9.3%	10.2%	2.1%	5.1%
緑茶（P）	5.7%	12.1%*	7.1%	6.2%	5.0%	4.1%
紅茶（葉茶）	2.9%	1.6%	0.0%	2.1%	4.3%	1.0%*
紅茶（P）	7.1%	2.9%*	0.0%	1.4%	2.1%	0.6%
ウーロン茶	20.7%	15.4%	28.6%	18.9%*	12.9%	11.7%
麦茶（煮出）	22.1%	20.5%	36.4%	34.4%	22.1%	20.3%
麦茶（P）	4.3%	2.1%	3.6%	2.3%	2.9%	1.8%
玄米茶	0.7%	0.2%	2.1%	0.4%	0.7%	0.2%
コーヒー（D）	0.7%	1.6%	0.0%	0.4%	1.4%	1.2%
コーヒー（I）	7.9%	2.1%*	0.0%	1.4%	2.1%	1.2%
牛乳	10.7%	5.7%*	7.1%	5.1%	9.3%	8.2%
ジュース	32.1%	10.2%*	7.1%	3.3%	10.0%	6.6%
炭酸飲料	17.1%	4.7%*	0.7%	2.3%	10.0%	2.3%*
乳酸飲料	7.9%	2.7%*	2.1%	0.4%	3.6%	2.1%
健康飲料	9.3%	3.1%*	1.4%	1.6%	5.0%	2.5%

* $p < 0.05$

校生との差が明らかだった。早川らの研究（早川，2002）では、年齢が高くなるに従って緑茶の飲用が高くなることが報告されているが、今回の調査からも同様の結果が得られた。しかし、本調査では、比較対象が高校生と大学生であるため年齢差が小さく、さらに年齢層を拡げて検討する必要があろう。

昼・夕食間の飲用比較では、高校生に比べ大学生の緑茶（ペットボトル）飲用率が高いのに対し、高校生は紅茶（ペットボトル）をよく飲んでいて、昼・夕食間とは、昼食後から夕食までの時間帯を指しているが、高校生では、コーヒー（インスタント）、炭酸飲料、乳酸飲料、健康飲料などの甘味系の嗜好飲料が大学生に比べ顕著に飲まれていた。これは、放課後の部活動など活動強度の高い状況が考えられ、その影響によるものと思われた。また、一日の中で朝食時を除いては、この時間帯に牛乳をよく飲んでいることが明らかだった。

夕食時の飲み物では、高校生、大学生のいずれも麦茶（煮出）とウーロン茶が最も多く飲まれており両者を併せると高校生では飲料全体の65%、大学生では53%を占めていた。夕食時には比較的、さっぱりとした茶系飲料が好まれていることが示唆された。また、すべての飲用機会を通して何も飲まない割合が最も低く、夕食時には何らかの飲み物を摂っていることが分かった。

就寝前にはどのような飲み物を飲んでいるのであろうか。就寝前の飲み物として最も多かった飲み物は、夕食時と同様、麦茶（煮出）とウーロン茶であった。高校生では就寝前に炭酸飲料をよく飲み大学生との間に有意差が見られた。また、何も飲まないと答えた者の割合が一日の中で最も多く、高校生では全体の15%、大学生では11%が寝る前に水分を取っていないことが明らかであった。この結果は、阪神地区で行なった年齢階層別の飲用比較の結果（早川，2004）と合致していた。

(2) 飲み物の嗜好性

最もポピュラーな飲料として知られている緑茶、紅茶、コーヒーの中から好きなものを選び

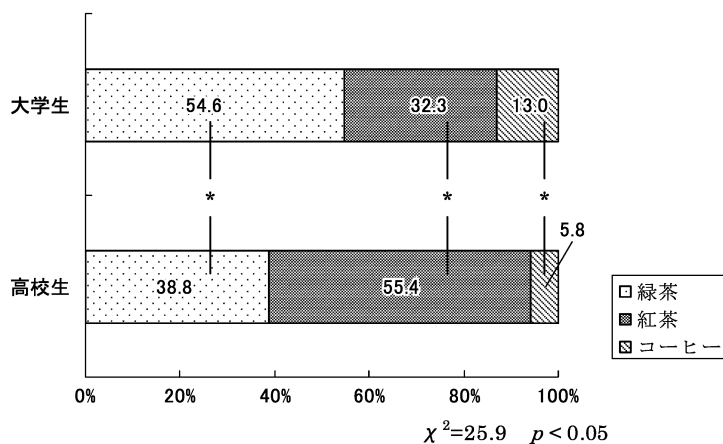


図1 飲み物の嗜好性

た。結果を図1に示した。大学生は緑茶とコーヒーに対して、高校生は紅茶に対して高い嗜好性を示し、有意な差が認められた。 $(p < 0.05)$ 。

しかし、全体ではコーヒーを好む割合は、少なく高校生、大学生の世代には好まれていなかった。コーヒーは、20歳以降50歳代の年齢層に好まれるとの報告（早川，2002）があるが、愛知県においてはどのような傾向が見られるのであろうか。今後の調査で明らかにしたい。

(3) 飲み物の嗜好理由

好きな飲み物の選んだ理由を図2に示した。高校生では「味」を大学生では「香り」を最も大きな選択理由としてあげている。これは、年齢が高くなるにつれ「味」という直接的な要因に加え、心理的あるいは精神的な満足を求める傾向にあると思われた。

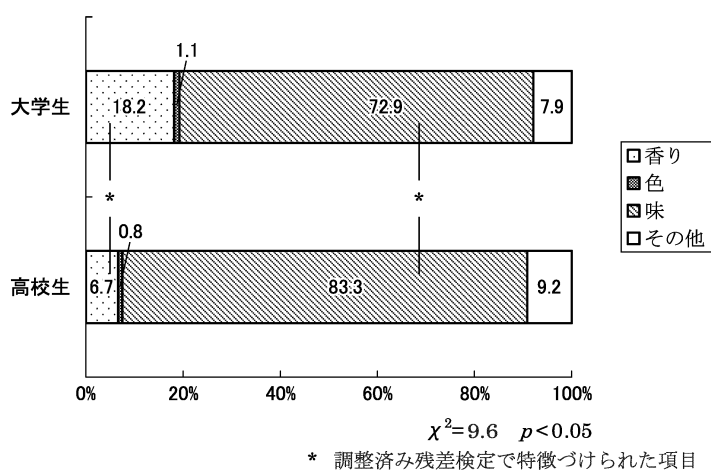


図2 飲み物の嗜好理由

(4) 来客時及び団欒時の飲み物に対するイメージ

来客時及び団欒時に飲む飲み物をイメージさせた。その結果を図3および図4に示した。来客時の飲み物として高校生、大学生ともに緑茶が多かったが、大学生のおよそ半数が緑茶を選んでいたのに対し、高校生の場合には、緑茶とほぼ同じ位、その他の飲み物を選んでいた。その他の飲み物として麦茶、ウーロン茶、ジュースなどをあげていた。

前述のようにコーヒーは、若年世代には飲まれていない傾向にあったが、15%の大学生が来客時の飲み物として選んでいた。団欒時の飲み物については、来客時と同様の傾向が見られた。このことから来客時及び団欒時に飲む飲み物として、大学生は緑茶を優先し、高校生は緑茶以外の飲み物を選んでいる傾向にあった。

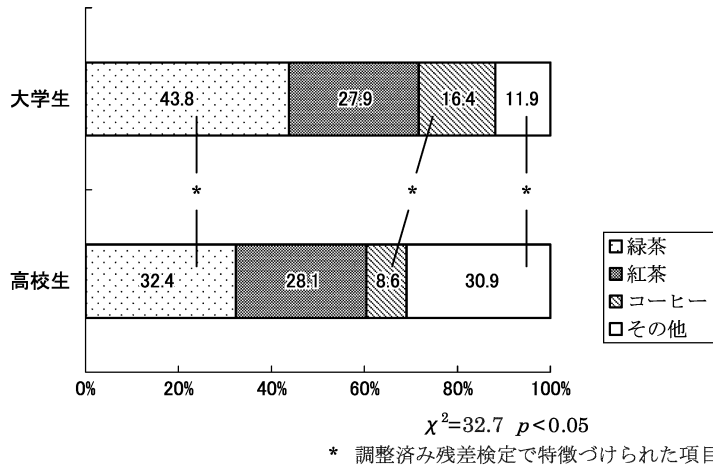


図3 来客時の飲み物に対するイメージ

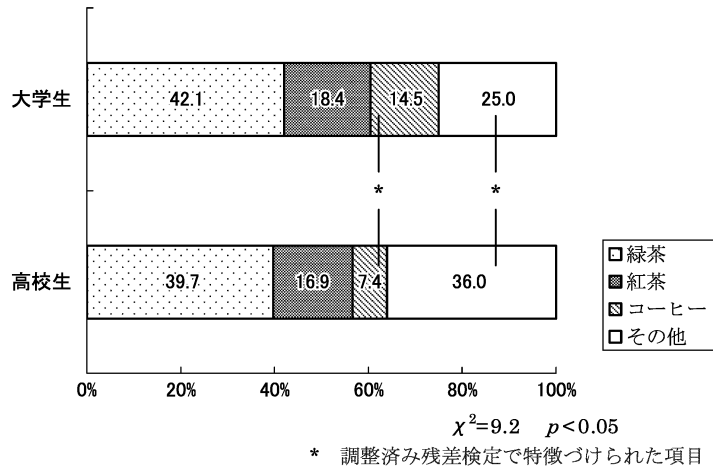


図4 団欒時の飲み物に対するイメージ

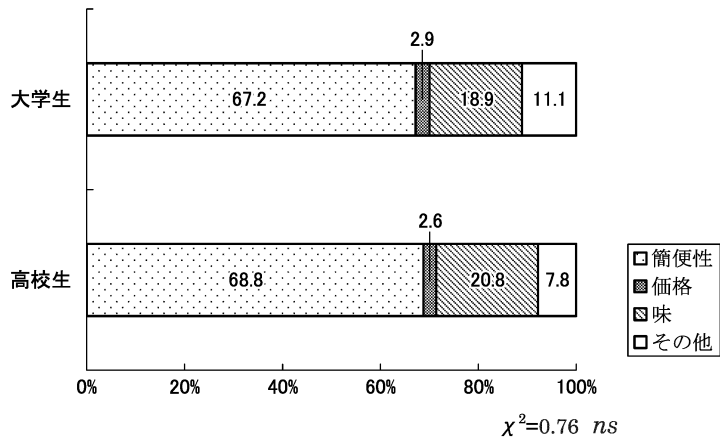


図5 ペットボトルの選択理由

(5) ペットボトルの選択理由

ペットボトルの利用が拡大する中、その選択理由を尋ねた。結果を図5に示した。高校生、大学生ともにその70%近くが「簡便性」をあげていた。外出時の「簡便性」重視が、そのままライフスタイルのひとつとして家庭においても定着していると思われた。

4. 結論

愛知県内の女子高校生と女子大学生を対象に2005年5月下旬から6月上旬にかけて夏季の飲物の飲用状況について調査を行ない比較した。その結果、以下のことが明らかになった。夏季の飲み物として一日全体を通じて最も多く飲まれているのは麦茶（煮出）とウーロン茶だった。しかし、高校生の場合には、これらの飲み物と併せて、ジュースや炭酸飲料、乳酸飲料などの甘味飲料をよく飲んでいて、朝食時の飲み物として麦茶（煮出）と牛乳が多く飲まれていた。朝・昼食間時の傾向として、大学生は、高校生に比べて飲み物を飲んでいないことがあげられた。昼・食時の飲み物では、麦茶（煮出）とウーロン茶のほかに高校生ではジュースを、大学生は緑茶の飲用頻度が高かった。コーヒー、紅茶などの飲用率は一日を通して低く、好まれていなかった。緑茶についてはペットボトルの利用が多かった。反面、麦茶についてはペットボトルの利用が少なく、ほとんどが茶葉から煮出したものを飲用していた。ペットボトルの選択理由として簡便性が最も多かった。昼・夕間時の飲み物では、高校生の場合、ジュースが最も多く飲まれていた。就寝前は、高校生、大学生のいずれも飲み物を飲まない割合が高く、他の地域における調査結果と同様の傾向が見られた。

緑茶、紅茶、コーヒーの対する嗜好性では大学生は緑茶を好み、高校生は紅茶を選んでいて、来客時及び団欒時の飲み物では、高校生、大学生ともに緑茶を最も多く選んでいたが、高校生においてはジュースの割合も高かった。緑茶は、年齢が高くなるにつれ飲用率が高くなる傾向にあった。

〔引用文献〕

- 1) 愛知県県民生活部統計課資料 2006. <http://www.pref.aichi.jp/>
- 2) 農林水産省「作物統計」2007.
- 3) 総務省「家計調査年報」（全国・全世帯）、「貿易統計」2007
- 4) 韓 順子, 谷 伊織, 2006. 女子高校生の夏季における飲み物の飲用実態. 東海学園大学研究紀要, 第11・12合併号 p139-150.
- 5) 野沢 歩, 鈴木裕子, 永田幸三, 角田隆己, 梶本修身, 梶本佳孝, 2007. ガレート型カテキンによる女性の血清コレステロール値低下作用, 第53回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集 p94.

- 6) 鈴木裕子, 野沢 歩, 永田幸三, 堤坂裕子, 角田隆己, 梶本修身, 梶本佳孝, 中村 正, 吉川敏一, 2007. ガレート型カテキンの体脂肪低減効果, 第53回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集 p94.
- 7) 岡崎章子, 韓 順子, 早川史子, 2006. 女子大学生の食物消費構造と PFC 比率, 第53回日本栄養改善学会学術総会講演集 p436.
- 8) 早川史子, 前田昭子, 野呂祐子, 南 幸, 日比嘉子, 田村義保 2002 女子学生の飲み物の飲用状況と意識の地域別10年間の比較. 日本食生活学会誌, 13, 174-182.
- 9) 早川史子, 前田昭子, 岡崎章子, 石津陽子, 猪口智子, 南 幸, 中森正代, 田村義保, 2004. 阪神地区における女子の飲行動の年齢階層別比較. 日本食生活学会誌, 15-3 210-215.